

「そろばんの実力」を見える化するとこうなります。

暗算段位

- ☐ 学校内でトップクラスの計算力。
- ☐ 計算の速さと正確性が高いレベルで実現。
- ☐ 3桁以上の加減乗除を暗算で計算できる。
- ☐ 小数のかけ算わり算を暗算で計算できる。
- ☐ 公倍数・公約数・約分が1瞬で分かる。
- ☐ 「2桁×2桁」の計算はひと目で答えがでる。
- ☐ 最大で「4桁×2桁」の計算を暗算で行える。
- ☐ 簡単な方程式の解が一瞬で見えてしまう。
- ☐ 数字を見ると勝手に頭の中で計算がはじまる。

暗算2～3級

- ☐ クラストップの計算力。
- ☐ 「4桁÷2桁」「2桁×2桁」の計算は5秒程度で答えがでる。
- ☐ 帯分数と仮分数の変換が一瞬でできる。
- ☐ 算数数学テストでの計算間違いが明らかに減る。
- ☐ 筆算で計算するよりも答えが先に見えてしまうことが多い。
- ☐ 10進法の概念ができており、大きな数や小数の桁のしくみをしっかり把握している。
- ☐ 計算で苦勞することがないため、算数の先取り学習が可能になる。

暗算6～7級

- ☐ 小学校中学年以上のクラスで10本の指に入る計算力。
- ☐ 小学校低学年のクラスならば1、2を争う計算力。
- ☐ さまざまな計算の場面で、そろばんを習っていない子供より優位に立てる。
- ☐ たし算ひき算の暗算は、平均以上のスピードを得られるが、正確性には個人差が出る。
- ☐ 「2桁×1桁」「3桁÷1桁」を暗算でやり始めるレベル。解答自体は10秒以内でできる。
- ☐ ただし、算数のテストなどで「そろばん式暗算」を使うにはまだ不安定。
- ☐ 低学年の算数であれば困ることはまずない。

初級～暗算10級

- ☐ 集合数の理解を元に、5までの数概念、10までの数概念が身に付く。
- ☐ 具体物、そろばん、数字で同じ数を表すことができる。
- ☐ たし算・ひき算の意味の理解と、そろばん上での操作ができる。
- ☐ 簡単なくり上り、くり下がりのある計算がそろばんのできる。
- ☐ 一の位、十の位を学び、100までの数をそろばんて操作する。

暗算段位

暗算1級

暗算2～3級

暗算4～5級

暗算6～7級

暗算8～9級

初級～暗算10級

暗算1級

- ☐ 学年トップの計算力。
- ☐ 「4桁÷2桁」「2桁×2桁」の計算は2秒で答えがでる。
- ☐ 「2桁±2桁」「3桁±3桁」の計算はひと目で答えがでる。
- ☐ 算数数学テストでの計算間違いは、ほぼ無くなる。
- ☐ 数感覚が鋭敏になる。
- ☐ さまざまな場面で「だいたいいくつ」という概算予想が頭に浮かぶようになる。
- ☐ ほとんどの計算は、筆算や途中式を経由せずに答えが出る。

暗算4～5級

- ☐ クラスで1、2を争う計算力。
- ☐ 「3桁÷1桁」「3桁×1桁」の計算は3～5秒で答えがでる。
- ☐ 学校レベルの算数であれば計算で困ることはまずない。
- ☐ とはいえ、わり算の立商や桁の大きな筆算になると処理が遅くなることもある。
- ☐ 九九の運用、倍数や約数の運用では未熟な面がみられる。

暗算8～9級

- ☐ 簡単なくり上がり、くりさがりの計算がそろばん式暗算でできる。
- ☐ 10進法の理解や数のしくみを理解し始める時期。
- ☐ ただし、理解度には個人差があるため、そろばんプリントのできる計算が、算数の学習場面では活用しきれないこともある。そろばんて学習したことが算数学習に活きるためにはさらなる修練が必要。
- ☐ 九九の学習を開始する。